

2011年(平成23年)6月1日(水曜日)

「私」  
すぽと



建築のあるべき姿に心を

寄りにまで心を及ぼせて考  
えなければならぬ

東日本大震災への構造家  
としての考えは「寺田寅彦  
先生がかつて、三陸海岸沿  
いに住むことの危険性を指  
摘していた。そこに家が建  
てられているのを知ってい  
て、発言してこなかったこ  
とに對して、

「私たち建築関係者は、  
建物一つひとつのことを考  
えることに目が向きがちだ  
ったが、どんなまちをつく  
った方がいいのか、ほかの分  
野の方たちとも連携して広  
い視野を持たなければなら  
ない。東日本大震災を契機  
にそのことを改めて考え、  
実践したい」

日本建築学会新会長に就任した  
東京工業大学名誉教授 和田 章氏  
は積極的にか  
かわりたい」  
と述べる。

いまの建築界はさまざま  
乱があった。  
震災では東京も大きな混  
乱があった。

ながらみの中で、ルール  
を守ることがまるで仕事の  
ようになってしまったと目  
戒を込めて警鐘を鳴らす。  
「建築のプロは本来、建  
築とはどうあるべきか、そ  
る地方にしなければならぬ  
ことに住む子どもたち、お年  
い」

1日、日本建築学会の新  
会長に就任した和田章東工  
大名誉教授は5月30日の総  
会後、インタビューにそつ  
こに住む子どもたち、お年  
い」

(無)